

令和4年度 富山県立福岡高等学校 シラバス

教科名	国語	科目名	現代の国語	単位数	2	対象学年 コース・類型	第1学年
科目の 概要と 到達目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。						
教科書	桐原書店「探求 現代の国語」						
副教材	ジャンプアップ高校漢字問題集 [改訂版] (東京書籍) チャート式 基礎学習システム 必修現代文 [四訂版] (数研出版)、同演習ノート (数研出版) カラー版新国語便覧 [新版六訂] (第一学習社)						
評価 の 観 点 ・ 内 容	a : 知識・技能		b : 思考・判断・表現		c : 主体的に学習に取り組む態度		
	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。		「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。		言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。		
主な 評価 方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の学習態度 確認テスト、小テスト 課題への取り組み状況 定期考査 		<ul style="list-style-type: none"> 授業中の学習態度 確認テスト、小テスト レポート課題 定期考査 		<ul style="list-style-type: none"> 授業中の学習態度 自己評価、振り返りシート グループ活動や発表の状況 パフォーマンス課題 演習ノート提出 		

※上記に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）にまとめます。また、学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）及び評定（1～5の5段階）にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

学期	単元名・学習内容	評価基準	評価方法		
			知 (a)	思 (b)	主 (c)
1 学 期 前 半	体験と思索Ⅰ ふしぎと人生 読書は必要か？ 評論Ⅰ 言葉の力	b: 話すこと・聞くことにおいて、自分の考えが的確に伝わるよう、話の構成や展開を工夫している。 b: 話すこと・聞くことにおいて、話し言葉の特徴を踏まえて、話し相手の理解が得られるように表現を工夫している。 b: 話すこと・聞くことにおいて、本文からの情報を整理して、自分の考えを広げたり深めたりしている。 b: 書くことにおいて、自分の考えや事柄が的確に伝わるよう	授業課題 中間考査	レポート 課題	グループ 活動と発表 振り返り

		に工夫している。 c: 意欲的に活動に取り組もうとしている。			シート
1 学 期 後 半	評論Ⅱ サイボーグとクローン 人間 読む 実社会Ⅰ 文化祭を企画する	a: 個別の情報と一般化された情報との関係について理解し、活用できている。 b: 話すこと・聞くことにおいて、目的や場に応じて伝え合う内容を検討している。 b: 話すこと・聞くことにおいて、論点を共有し、表現や進行など話し合いの仕方や結論の出し方を工夫している。 b: 書くことにおいて、読み手の理解が得られるよう、文章の構成や展開を工夫している。 c: 意欲的に活動に取り組もうとしている。	授業課題 期末考査	レポート 課題 期末考査	グループ 活動と発 表 振り返り シート
2 学 期 前 半	評論Ⅱ 読む 実社会Ⅰ 問いの立て方とオリジ ナリティ 評論Ⅲ 遅れてきた「私」	a: 文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解し、活用できている。 b: 話すこと・聞くことにおいて、目的や場に応じて伝え合う内容を検討している。 b: 書くことにおいて、目的や意図に応じて、自分の文章の特長や課題を捉え直そうとしている。 b: 読むことにおいて、書き手の意図を解釈したり、構成や展開について評価したりしながら、自分の考えを深めている。 c: 意欲的に活動に取り組もうとしている。	授業課題 中間考査	レポート 課題 中間考査	グループ 活動と発 表 振り返り シート
2 学 期 後 半	体験と思索Ⅱ アリュージョン、老兵の 夢と闇 評論Ⅳ わかろうとする姿勢 実社会Ⅱ 全国高校生「好きな漢 字」総選挙	a: 語感を磨き、語彙を豊かにし、多様な言葉を活用している。 b: 書くことにおいて、目的や意図に応じて、適切な題材を集め、伝えたいことを明確にしている。 b: 書くことにおいて、考えや事柄が的確に伝わるよう、表現の仕方を工夫している。 b: 読むことにおいて、内容や構成、展開についての叙述を的確に捉え、文章を把握しようとしている。 c: 意欲的に活動に取り組もうとしている。	授業課題 期末考査	レポート 課題 期末考査	グループ 活動と発 表 振り返り シート
3 学 期	評論Ⅴ 言葉を学ぶとは 見解を比べる 生物多様性と科学 ヒトの「進化」と普遍性 実社会Ⅲ 納税は義務か	a: 主張と根拠など情報と情報との関係について理解して、意見を述べている。b: 書くことにおいて、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。 b: 書くことにおいて、目的や意図に応じて、自分の文章の特長や課題を捉え直している。 b: 読むことにおいて、内容や構成、展開についての叙述を的確に捉え、文章を把握しようとしている。 b: 読むことにおいて、書き手の意図を解釈したり、構成や展開について評価したりしながら、自分の考えを深めている。 c: 意欲的に活動に取り組もうとしている。	授業課題 学年末考 査	レポート 課題 学年末考 査	グループ 活動と発 表 振り返り シート

令和4年度 富山県立福岡高等学校 シラバス

教科名	国語	科目名	言語文化	単位数	3	対象学年 コース・類型	第1学年
科目の 概要と 到達目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>(1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3)言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>						
教科書	数研出版「言語文化」						
副教材	<p>「チャート式基礎学習システム 必修古文」(数研出版)</p> <p>「チャート式基礎学習システム 必修漢文」(数研出版)</p> <p>「完全マスター 古典文法」(第一学習社)</p> <p>「完全マスター 古典文法準拠ノート」(第一学習社)</p> <p>「基礎から解釈へ 漢文必携」(桐原書店)</p> <p>「基礎からのジャンプアップノート 漢文句法演習ドリル」(旺文社)</p> <p>「カラー版 新国語便覧」(第一学習社)</p>						
評価 の 観点 ・ 内容	a : 知識・技能		b : 思考・判断・表現		c : 主体的に学習に取り組む態度		
	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。		「書くこと」「読むこと」の二つの領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。		言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		
主な 評価 方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の学習態度 確認テスト、小テスト 課題への取り組み状況 定期考査 		<ul style="list-style-type: none"> 授業中の学習態度 確認テスト、小テスト 課題への取り組み状況 レポート課題 定期考査 		<ul style="list-style-type: none"> 授業中の学習態度 自己評価、振り返りシート グループ活動や発表の状況 		

※上記に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）にまとめます。また、学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）及び評定（1～5の5段階）にまとめます。学習

内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

学期	単元名・学習内容	評価基準	評価方法		
			知 (a)	思 (b)	主 (c)
1 学期 前半	<p>児のそら寝</p> <p>絵仏師良秀</p> <p>なよ竹のかぐや姫</p> <p>神無月のころ</p> <p>ある人、弓射ることを習ふに</p>	<p>a 知識・技能において、古典を読むために必要な文語の決まりや古典特有の表現について理解している。</p> <p>b 読むことにおいて、内容や構成、展開などについて叙述を基に捉えている。</p> <p>b 読むことにおいて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。</p> <p>b 読むことにおいて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。</p> <p>b 読むことにおいて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。</p> <p>b 読むことにおいて、本文に表れている物の見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。</p> <p>c 徒然草の教科書掲載以外の段も読む。</p>	<p>授業課題</p> <p>中間考査</p>	<p>確認テスト・小テスト</p> <p>中間考査</p>	<p>グループ活動</p> <p>振り返りシート</p>
1 学期 後半	<p>漢文入門</p> <p>漁夫之利</p> <p>羅生門</p>	<p>a 知識・技能において、漢文訓読の決まり、漢文特有の表現について理解している。</p> <p>b 読むことにおいて、本文に表れている物の見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。</p> <p>b 読むことにおいて、作品の成立した背景を踏まえ、内容の解釈を深めている。</p> <p>c 羅生門と今昔物語集の読み比べを積極的に行う。</p>	<p>授業課題</p> <p>期末考査</p>	<p>レポート課題</p> <p>期末考査</p>	<p>グループ活動と発表</p> <p>振り返りシート</p>
2 学期 前半	<p>徒然草</p> <p>狐虎の威を借る</p> <p>管鮑の交はり</p> <p>鶏口牛後</p>	<p>a 知識・技能において、作品の歴史的背景を理解する。</p> <p>b 読むことにおいて、本文に表れている物の見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。</p> <p>b 読むことにおいて、本文に表れている物の見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。</p> <p>b 読むことにおいて、文章の成立した背景を踏まえ、内容の解釈を深めている。</p> <p>b 読むことにおいて、文章の成立した背景を踏まえ、内容の解釈を深めている。</p>	<p>授業課題</p> <p>中間考査</p>	<p>確認テスト・小テスト</p> <p>中間考査</p>	<p>グループ活動</p> <p>振り返りシート</p>

	短歌・俳句 伊勢物語	<p>b 読むことにおいて、作品や内容の解釈を踏まえ、自分の物の見方、考え方を深めている。</p> <p>c 情景や心情の描写を取り入れて、自分でも短歌を詠んでみる。</p> <p>b 読むことにおいて、作品や内容の解釈を踏まえ、自分の物の見方、考え方を深めている。</p>			
2 学 期 後 半	枕草子 漢詩 土佐日記	<p>b 書くことにおいて、適切な題材を決め、表現したいことを明確にしている。</p> <p>c 枕草子の教科書掲載以外の段についても読む。</p> <p>a 知識・技能において、漢詩特有の決まりを理解し、内容の解釈を深めている。</p> <p>b 読むことにおいて、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。</p>	授業課題 期末考査	レポート 課題 期末考査	グループ 活動と発 表 振り返り シート
3 学 期	三大歌集 平家物語 山月記 論語 雑説	<p>a 知識・技能において、三大歌集の比較をしながら、それぞれの特徴を捉えている。</p> <p>b 読むことにおいて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。</p> <p>b 読むことにおいて、作品の成立した背景や他の作品との関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。</p> <p>c 山月記と人虎伝の読み比べを積極的に行う。</p> <p>b 読むことにおいて、本文に表れている物の見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。</p> <p>b 読むことにおいて、本文に表れている物の見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。</p>	授業課題 学年末考査	レポート 課題 学年末考査	グループ 活動と発 表 振り返り シート

令和4年度 富山県立福岡高等学校 シラバス

教科名	地理歴史	科目名	歴史総合	単位数	2	対象学年 コース・類型	第1学年
科目の 概要と 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的な事象の歴史の見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に公民としての資質・能力を育成することを目指す。 ・近現代の歴史に関わる諸事象について、日本を含む世界を相互的な視野からとらえ、現代的な諸課題の形成に関わる歴史を理解する。 ・多様な観点に着目し、多面的・多角的に近現代の歴史を考察する力を養う。 ・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。 						
教科書	詳述歴史総合（実教出版）						
副教材	問いから始まる歴史総合（とうほう） 新詳歴史総合（浜島書店） 詳述歴史総合マイノート（実教出版）						
評価 の 観点 ・ 内容	a：知識・技能		b：思考・判断・表現		c：主体的に学習に取り組む態度		
	<ul style="list-style-type: none"> ・近現代の歴史に関する諸事象について、世界との中の日本を広く相互的な視点から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解しているか。 ・諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめているか。 		<ul style="list-style-type: none"> ・近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを利用して多面的・多角的に考察しているか。 ・歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想し、それらをもとに効果的に説明したり、議論したりしているか。 		<ul style="list-style-type: none"> ・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしているか。 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、わが国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについて自覚しているか。 		
主な 評価 方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の学習態度 ・確認テスト、小テスト ・課題への取り組み状況 ・定期考査 		<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の学習態度 ・確認テスト、小テスト ・レポート課題 ・定期考査 		<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の学習態度 ・自己評価、振り返りシート ・グループ活動や発表の状況 ・学習課題への取り組み状況 		

※上記に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）にまとめます。また、学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）及び評定（1～5の5段階）にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

学期	単元名・学習内容	評価基準	評価方法		
			知 (a)	思 (b)	主 (c)
1 学期 前半	歴史の扉 第1編 近代化と私たち 近代化への問い 第1章 近代化への胎動	a:身近な諸事象が、日本や世界の歴史とつながっていることを理解できる。 a:アジアや日本と欧米諸国との貿易などを基に、18世紀のアジアの経済・社会やヨーロッパの近代市民社会について理解できる。 b:18世紀のアジア諸国とヨーロッパ諸国の経済に関する資料などを活用し、歴史の変化や日本と世界の関連性について多面的・多角的に考察し、表現することができる。 c:前近代の歴史の変化に関わる資料などを読み取ったり、まとめたり、また複数の資料を関連付けたりすることにより、興味・関心をもったこと、疑問に思ったことなどを主体的に見出すことができる。	小テスト 問題集の指定問題 中間考査	小テスト レポート課題 中間考査	グループ活動と発表表 振り返りシート
1 学期 後半	第2章 欧米の市民革命と国民国家の形成 第3章 アジアの変容と日本の近代化	a:産業革命や工業化の拡大、日本の開国や憲法制定などを基に、18世紀以降の欧米の市民社会や国民統合の動向などと関連づけて、立憲体制と国民国家の形成を理解できる。 b:産業革命、国民国家の形成、日本や中国の開港などの背景や影響に着目し、主題を設定し、アジア諸国や欧米諸国の動向を比較したり関連付けたりするなどして、政治や社会の変容、アジア諸国と欧米諸国の関係の変容などを多面的・多角的に考察、表現できる。 c:近代ヨーロッパの歴史の変化や、19世紀半ばのアジアと世界の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うことができる。	小テスト 問題集の指定問題 期末考査	小テスト レポート課題 期末考査	グループ活動と発表表 振り返りシート 演習ノート提出
2 学期 前半	第4章 帝国主義の時代 第2編 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第5章 第一次世界大戦と大衆社会	a:列強の植民地形成、日本の対外戦争などを基に、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解できる。また、第一次世界大戦前後の世界情勢を基に国際体制や大衆社会の形成について理解できる。 b:帝国主義政策が与えた様々な影響や、第一次世界大戦前後の社会情勢の変化などに着目して、主題を設定し、帝国主義政策の特徴や国際関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現できる。 c:19世紀末～20世紀初頭の世界の歴史に変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うことができる。	小テスト 問題集の指定問題 中間考査	小テスト レポート課題 中間考査	グループ活動と発表表 振り返りシート
2 学期	第6章 経済危機と第二次世界大戦 第3編 グローバル化と	a:世界恐慌以降の国際協調体制の動揺や第二次世界大戦前後の社会情勢の変化、新たな対立構造成立などを基に国際社会の変容について理解できる。	小テスト 問題集の	小テスト レポート	グループ活動と発表表

後半	<p>私たち</p> <p>第7章 冷戦と脱植民地</p>	<p>b: 世界恐慌以降の国際協調体制の動揺や第二次世界大戦前後の社会情勢の変化、新たな対立構造成立などに着目して、国際協調体制の動揺や第二次世界大戦勃発の要因、大戦後の国際社会の変容について、多面的・多角的に考察し表現できる。</p> <p>c: 第二次世界大戦前後の世界の歴史の変化や 1950 年～1970 年代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うことができる。</p>	<p>指定問題</p> <p>期末考査</p>	<p>課題</p> <p>期末考査</p>	<p>振り返りシート</p> <p>演習ノート提出</p>
3学期	<p>第8章 多極化する世界</p> <p>第9章 グローバル化と現代世界</p>	<p>a: 石油危機以降の世界の経済や政治情勢、冷戦の終結や地域統合の拡大と変容などを基に、国際社会の変容と課題について理解できる。</p> <p>b: 石油危機以降の世界の経済や政治情勢、冷戦の終結や地域統合の拡大と変容などに着目して、国際経済のグローバル化や冷戦終結後の国際政治の特徴、日本が果たしている役割などを多面的・多角的に考察し、表現できる。</p> <p>c: 1970 年代以降の世界の歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うことができる。</p>	<p>小テスト</p> <p>問題集の指定問題</p> <p>期末考査</p>	<p>小テスト</p> <p>レポート課題</p> <p>期末考査</p>	<p>グループ活動と発表</p> <p>振り返りシート</p> <p>演習ノート提出</p>

令和4年度 富山県立福岡高等学校 シラバス

教科名	数学	科目名	数学 I	単位数	3	対象学年 コース・類型	第1学年
科目の 概要と 到達目標	数と式、2次関数、集合と命題、図形と計量、データの分析について、概念を理解し、基礎的な知識の習得と数学的处理技能の習熟や、数学的な思考力・判断力・表現力を身に付けることを目指す。また、事象を数学的に考察したり多面的に捉える能力、習得した知識、習熟した技能を的確に活用する能力を伸ばすことを目指す。						
教科書	「数学 I」 (啓林館)						
副教材	教科書傍用問題集 「アドバンスα 数学 I +A」 (啓林館) 参考書 「Focus Gold Smart 数学 I +A」 (啓林館)						
評価の 観点 ・ 内容	a : 知識・技能		b : 思考・判断・表現		c : 主体的に学習に取り組む態度		
	数と式、2次関数、集合と命題、図形と計量、及びデータの分析における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けているか。また、事象を数学化して数学的に解釈し、数学的に表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決できる技能を身に付けているか。		数学的な活動を通して、数と式、2次関数、集合と命題、図形と計量、及びデータの分析における数学を活用して事象を論理的に考察する力を身に付け、思考の過程を振り返り事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力や、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているか。		数学的な活動を通して、数と式、2次関数、集合と命題、図形と計量、及びデータの分析における考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているか。		
主な 評価 方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の学習態度 確認テスト、小テスト 課題への取組み状況 定期考査 		<ul style="list-style-type: none"> 授業中の学習態度 確認テスト、小テスト レポート課題 定期考査 		<ul style="list-style-type: none"> 授業中の学習態度 自己評価、振り返りシート グループ活動や発表の状況 演習ノート提出 		

※上記に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価 (A、B、Cの3段階) にまとめます。また、学年末に観点別学習状況の評価 (A、B、Cの3段階) 及び評定 (1～5の5段階) にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

学期	単元名・学習内容	評価基準	評価方法		
			知 (a)	思 (b)	主 (c)
1 学期 前半	第1章 数と式 第1節 多項式 第2節 実数 第3節 1次不等式 第2章 2次関数 第1節 関数とグラフ 1 関数 2 2次関数のグラフ	a: 多項式、実数、1次不等式について理解し、基本的な知識を身に付けている。多項式の展開や因数分解など多項式の基礎的な計算をしたり、無理数の計算ができる。また、1次不等式や連立1次不等式を解いたり、複雑な多項式の計算や無理数の計算ができる。 b: 数の範囲を拡張することの意味を理解するとともに、1次不等式を的確に利用することができる。 c: 多項式、実数、1次不等式に関心を持ち、その有用性を認識し、それらを問題の解決に活用しようとする。	小テスト 問題集の指定問題 中間考査	小テスト レポート課題 中間考査	グループ活動と発表 振り返りシート
1 学期 後半	3 2次関数の決定 第2節 2次関数の最大・最小 第3節 2次関数と方程式・不等式	a: 2次関数とそのグラフおよび関数の値の変化について基礎的な知識を身に付け、関数を用いて数量の変化を表現し、関数の値の変化を調べることができる。判別式を利用して2次方程式の解の個数を求めることができる。2次関数と2次方程式・2次不等式を関連付けて理解している。 b: 表、式、グラフを関連付けながら変化の様子をとらえることができる。 c: 2次関数とそのグラフや値の変化に関心を持ち、調べようとする。関数を用いて数量の変化を表現することの有用性を認識し、2次関数を活用しようとする。	小テスト 問題集の指定問題 期末考査	小テスト レポート課題 期末考査	グループ活動と発表 振り返りシート 演習ノート提出
2 学期 前半	第3章 集合と命題 第1節 集合 第2節 命題と証明 第4章 図形と計量 第1節 鋭角の三角比 第2節 三角比の拡張 第3節 正弦定理と余弦定理	a: 集合と命題について基本的な知識を身に付け、記号や必要条件、十分条件などの用語の意味を理解している。また、集合の考えを命題の考察に生かし、必要条件、十分条件、逆、裏、対偶、背理法などの数学的な論理を活用することができる。 b: 集合を用いて命題の真偽について判断することができる。 c: 集合と命題の問題に意欲的に取り組み、事象を論理的に表現しようとする。	小テスト 問題集の指定問題 中間考査	小テスト レポート課題 中間考査	グループ活動と発表 振り返りシート
2 学期 後半	第4節 図形の計量 第5章 データの分析 第1節 データの整理と分析 第2節 統計的探究プロセス	a: 三角比や、線分の長さや角の大きさを求めることができる。具体的な事象の数量の関係を、三角比などを用いて表現し、様々な図形の計量を行うことができる。 四分位数、分散、標準偏差、散布図と相関係数などの統計の用語の意味を理解している。また、データを分析してその傾向を的確にとらえ説明することができる。 b: 三角比の考えを用いて、線分の長さや角の大きさなどを用いた図形の計量を行う過程を考察することができる。データを整理した表や図から傾向を把握することができる。また、仮説検定の考え方において、仮説の妥当性を判断することができる。 c: 線分の長さや角の大きさなどを用いた計量の有用性を認識し、具体的な事象の考察に活用しようとする。 様々な事象から見出される確率や統計に関するデータの分析に関心を持ち、調べようとする。	小テスト 問題集の指定問題 期末考査	小テスト レポート課題 期末考査	グループ活動と発表 振り返りシート 演習ノート提出

令和4年度 富山県立福岡高等学校 シラバス

教科名	理科	科目名	化学基礎	単位数	2	対象学年 コース・類型	第1学年
科目の概要と到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物・現象を題材にして自然に対する関心や探究心を高め、基本的な概念や原理・法則を理解する。 ・実験・観察を通して化学の役割や物質の扱い方を理解し、科学的な自然観を身につける。 ・物質をよく観察することにより現代社会をより広い視点で捉え、的確な判断を下すことができるようになる。 						
教科書	新編 化学基礎 (数研出版)						
副教材	四訂版 リードLight ノート 化学基礎 (数研出版)						
評価の観点・内容	a: 知識・技能		b: 思考・判断・表現		c: 主体的に学習に取り組む態度		
	化学に関する内容を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。		観察、実験などを通して探究し、規則性や関係性を見いだして表現している。		化学に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。		
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の学習態度 ・実験中の様子 ・確認テスト、小テスト ・定期考査 		<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の学習態度 ・グループ活動の様子 ・確認テスト、小テスト ・実験テキスト ・定期考査 		<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の学習態度 ・グループ活動の様子 ・自己評価、振り返りシート ・実験中の学習態度 ・実験テキスト 		

※上記に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価 (A、B、Cの3段階) にまとめます。また、学年末に観点別学習状況の評価 (A、B、Cの3段階) 及び評定 (1～5の5段階) にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

学期	単元名・学習内容	評価基準	評価方法		
			知 (a)	思 (b)	主 (c)
1 学期 前半	序編 化学と人間生活 第1編 物質の構成と化学結合 第1章 物質の構成	<p>a: 化学と人間生活、物質の構成について、化学と物質について理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につけている。</p> <p>b: 身近な物質や元素について、観察、実験などを通して探究し、科学的に考察し、表現している。</p> <p>c: 化学と人間生活、物質の構成に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p>	小テスト 問題集の 指定問題 中間考査	小テスト 実験テキ スト 中間考査	実験テキ スト 振り返り シート

1 学 期 後 半	第2章 物質の構成粒子 第3章 粒子の結合	<p>a: 物質の構成粒子について、原子の構造、電子配置と周期表について理解している。また、物質と化学結合についての観察、実験などを通して、イオンとイオン結合、分子と共有結合、金属と金属結合を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。</p> <p>b: 物質の構成について、観察、実験などを通して探究し、物質の構成における規則性や関係性を見いだして表現している。</p> <p>c: 物質の構成に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p>	小テスト 問題集の 指定問題 期末考査	小テスト 実験テキ スト 期末考査	実験テキ スト 振り返り シート
2 学 期 前 半	第2編 物質の変化 第1章 物質と化学反応式	<p>a: 物質について理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。</p> <p>b: 物質と化学反応式について、観察、実験などを通して探究し、規則性や関係性を見いだして表現している。</p> <p>c: 物質と化学反応式に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p>	小テスト 問題集の 指定問題 中間考査	小テスト 実験テキ スト 中間考査	実験テキ スト 振り返り シート
2 学 期 後 半	第2章 酸と塩基の反応	<p>a: 酸・塩基と中和について理解しているとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けている。</p> <p>b: 観察、実験などを通して探究し、物質の変化における規則性や関係性を見いだして表現している。</p> <p>c: 酸・塩基と中和とその利用について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p>	小テスト 問題集の 指定問題 期末考査	小テスト 実験テキ スト 期末考査	実験テキ スト 振り返り シート
3 学 期	第3章 酸化還元反応 終章 化学が拓く世界	<p>a: 酸化と還元、化学が拓く世界について理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。</p> <p>b: 酸化と還元、化学が拓く世界について、観察、実験などを通して探究し、物質の変化における規則性や関係性を見いだして表現している。</p> <p>c: 酸化と還元、化学が拓く世界に主体的に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p>	小テスト 問題集の 指定問題 学年末 考査	小テスト 実験テキ スト 学年末 考査	実験テキ スト 振り返り シート

令和4年度 富山県立福岡高等学校 シラバス

教科名	理科	科目名	地学基礎	単位数	2	対象学年 コース・類型	第1学年
科目の 概要と 到達目標	地球や地球を取り巻く環境に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、地球や地球を取り巻く環境を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。						
教科書	高等学校 地学基礎 (啓林館)						
副教材	Navi & トレーニング 新訂版 地学基礎 (啓林館) 2022 新課程版 セミナー地学基礎 (第一学習社)						
評価の 観点・ 内容	a: 知識・技能	b: 思考・判断・表現	c: 主体的に学習に取り組む態度				
	日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境についての観察、実験などを行うことを通して、地球や地球を取り巻く環境に関する基本的な概念や原理・法則を理解しているか。科学的に探究するための観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けているか。	地球や地球を取り巻く環境を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、野外観察、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法を習得しているか。報告書の作成や発表などを通して、科学的に探究し、表現する力が養われているか。	地球や地球を取り巻く環境に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し、解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度が養われているか。				
主な 評価 方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の学習態度 確認テスト、小テスト 課題への取組み状況 定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の学習態度 確認テスト、小テスト レポート課題 グループ活動や発表の状況 定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の学習態度 自己評価、振り返りシート グループ活動や発表の状況 レポート課題 演習ノート提出 				

※上記に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価 (A、B、Cの3段階) にまとめます。また、学年末に観点別学習状況の評価 (A、B、Cの3段階) 及び評定 (1～5の5段階) にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

学期	単元名・学習内容	評価基準	評価方法		
			知 (a)	思 (b)	主 (c)
1 学 期 前 半	第1部 固体地球とその活動 第1章 地球 第1節 地球の概観 第2節 地球の内部構造	a: 地球の形と大きさ, 地球内部の層構造とその状態について理解することができる。地形図を用いて, 地球の大きさを求めることができる。電子てんびんを用いて岩石や金属の密度を測定することができる。 b: 地球の形と大きさ, 地球内部の層構造とその状態について, 観察や測定の結果などから考えることができる。 c: 地球の特徴に興味をもち, 地球の形と大きさ, 地球の内部構造について調べようとする。	小テスト	小テスト	グループ活動と発表
	第2章 活動する地球 第1節 プレートテクトニクスと地球の活動 第2節 地震 第3節 火山活動と火成岩の形成	a: 3種類のプレート境界, プレート運動に伴う大地形・地質構造 変成岩の形成 地震の発生のしくみ, プレート境界やプレート内部における火山分布や火山活動の特徴を理解することができる。組織と造岩物の組成に基づいて, 火成岩の分類を理解することができる。火成岩を観察し, 組織の特徴を押さえてスケッチすることができる。 b: 大地形・地質構造 変成岩の形成 地震の発生のしくみ, 火山活動のしくみについて, プレート運動と関連づけて考えることができる。 c: プレートの運動に興味をもち, プレート運動に伴う大地形・地質構造 変成岩の形成, プレート運動と関連する地震の発生のしくみ, 火山活動や火成岩の形成のしくみについて調べようとする。地震の発生のしくみ, 火山活動のしくみについて振り返り, 日常生活や社会に生かそうとする。	問題集の指定問題 中間考査	レポート課題 中間考査	振り返りシート
1 学 期 後 半	第2部 大気と海洋 第1章 大気 第1節 大気圏 第2節 水と気象	a: 大気圏の層構造 雲の発生のしくみについて理解することができる。観測データをもとに, 高度と気圧・気温の関係をグラフに表すことができる。 b: 気圧や気温の鉛直方向の変化から, 大気圏の層構造について考えることができる。雲の発生のしくみについて, 大気中の水蒸気の影響と関連づけて考えることができる。 c: 身近な体験から大気の特徴に興味をもち, 大気圏の層構造や雲の発生のしくみについて調べようとする。大気圏の層構造, 大気圏の発生のしくみについて振り返り, 日常生活や社会に生かそうとする。	小テスト	小テスト	グループ活動と発表
	第2章 太陽放射と大気・海水の運動 第1節 地球のエネルギー収支 第2節 大気の大循環 第3節 海水の循環	a: 地球全体のエネルギー収支が釣り合っていること, 緯度によるエネルギー収支の差について理解することができる。大気の大循環によって低緯度から高緯度へ熱が輸送されていることを理解することができる。海洋の層構造 海水の循環について理解することができる。観測データをもとに, 緯度と地球放射エネルギーおよびエネルギー収支の関係をグラフに表すことができる。 b: 地球全体のエネルギー収支, 緯度によるエネルギー収支の差, 大気の大循環による熱の輸送 海水の運動による熱の輸送について考えることができる。 c: 地球が宇宙との間でエネルギーを吸収・放出していることに興味をもち, 地球全体のエネルギー収支, 緯度によるエネルギー収支の差や, 大気の大循環による地球規模の熱の輸送について調べようとする。海水の運動による地球規模の熱の輸送について調べようとする。	問題集の指定問題 期末考査	レポート課題 期末考査	振り返りシート
2 学 期 前 半	第3章 日本の天気 第1節 日本の位置 第2節 冬から春の天気 第3節 夏から秋の天気	a: 季節ごとの偏西風の位置や季節風のしくみ, 日本で見られる季節の天気の特徴を理解することができる。天気図から必要な情報を読み取ることができる。 b: 季節ごとの偏西風の位置や季節風のしくみ, 日本で見られる季節の天気と気圧配置の関係について考えることができる。 c: 日本の天気について興味をもち, 日本の天気と影響を与える偏西風や季節風の特徴, 日本の季節ごとの天気について調べようとする。日本の季節ごとの天気について振り返り, 日常生活や社会に生かそうとする。	小テスト	小テスト	グループ活動と発表
	第3部 移り変わる地球 第1章 地球の誕生 第1節 宇宙の誕生 第2節 太陽系の誕生	a: 宇宙の誕生, 恒星としての太陽の誕生, 太陽系の誕生, 地球型惑星と木星型惑星の成因の差, 太陽系の各天体の特徴, 地球が生命を生み出す環境となった理由について理解することができる。 b: 宇宙の誕生と恒星としての太陽の誕生, 太陽系の誕生と惑星の成因について考えることができる。太陽系の各天体の特徴を比較し, 地球が生命を生み出す環境となった理由について考えることができる。 c: 宇宙と太陽の誕生の経緯に興味をもち, 宇宙の誕生と恒星としての太陽の誕生について調べようとする。太陽系と地球の誕生の経緯に興味をもち, 太陽系の誕生と太陽系の各天体の特徴, および地球が生命を生み出す環境となった理由について調べようとする。	問題集の指定問題 中間考査	レポート課題 中間考査	振り返りシート
2 学 期 後 半	第2章 地球と生命の進化 第1節 先カンブリア時代 第2節 顕生代	a: 地球の誕生から生命の出現に至る地球の歴史, 大気や海洋, 気候などの地球環境の変化と生物の活動の相互関係, 古生物の変遷に基づいて地質年代が区分されることについて理解することができる。 b: 地球が誕生してからの大気と海洋の変化と, 生命の出現に至る地球の歴史, 大気や海洋, 気候などの地球環境の変化と生物の活動の相互関係について考えることができる。 c: 地球の歴史に興味をもち, 地球の誕生から生命の出現に至る地球の歴史, 地球環境の変化と生物の活動の相互関係について調べようとする。古生物の変遷に基づいて地質年代が区分されることについて調べようとする。	小テスト	小テスト	グループ活動と発表
	第3章 地球史の読み方 第1節 地層からわかること 第2節 地層の形成 第3節 地層の読み方	a: 流水のよたつきによって地層が形成されるしくみ, 堆積岩が形成されるしくみを理解することができる。粒子の種類や大きさなどの特徴を押さえて, 堆積岩を観察することができる。地質構造や化石などの地層の記録や, 地層の対比などに基づいて, 地球の歴史を知る方法を理解することができる。 b: 流水のよたつきによって地層が形成されるしくみ, 堆積岩が形成されるしくみ, 質構造や化石などの地層の記録や, 地層の対比などに基づいて, 地球の歴史を知る方法について考えることができる。 c: 地球の歴史を知る方法に興味をもち, 地層に基づいて地球の歴史を知る理由, 地層や堆積岩が形成されるしくみについて調べようとする。地質構造や化石などの地層の記録や, 地層の対比などに基づいて, 地球の歴史を知る方法について調べようとする。	問題集の指定問題 期末考査	レポート課題 期末考査	振り返りシート
3 学 期	第4部 自然との共生 第1節 地球環境と人類 第2節 地震災害・火山災害 第3節 気象災害 第4節 災害と社会 第5節 人間生活と地球環境の変化	a: 人類が自然から受けている多様な恩恵, 地震災害, 火山災害, 気象災害について理解することができる。地震や火山, 気象の観測方法と対策, 地域の特徴と合わせた防災対策が必要であることを理解することができる。人間生活と地球環境の変化との関係について理解することができる。観測データをもとに, 年平均気温の変化をグラフに表すことができる。 b: 地球環境の変化の時間・空間スケール, 人類が自然から受けている多様な恩恵, 地震災害, 火山災害, 気象災害, 地域の特徴と合わせた防災対策, 人間生活と地球環境の変化との関係について考えることができる。 c: 自然との共生に興味をもち, 人類が自然から受けている多様な恩恵, 地震災害, 火山災害, 気象災害, 地震や火山, 気象の観測方法と対策, 地域の特徴と合わせた防災対策, 人間生活と地球環境の変化との関係について調べようとする。人類が自然から受けている多様な恩恵, 地震災害, 火山災害, 気象災害, 自然災害の観測方法と対策, 人間生活と地球環境の変化との関係について振り返り, 日常生活や社会に生かそうとする。	小テスト 問題集の指定問題 学年末考査	小テスト レポート課題 学年末考査	グループ活動と発表 振り返りシート

令和4年度 富山県立福岡高等学校 シラバス

教科名	保健体育	科目名	体育	単位数	3	対象学年 コース・類型	1 学年
科目の 概要と 到達目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。						
教科書	現代高等保健体育（大修館書店）						
副教材	現代高等保健体育ノート（大修館書店）						
評 価 の 観 点 ・ 内 容	a：知識・技能		b：思考・判断・表現			c：主体的に学習に取り組む態度	
	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解したり、それらの技能を身につけたりしている。		生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。			運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。	
主 な 評 価 方 法	授業の取り組み （準備運動・アップ） 期末テスト 実技テスト		授業の取り組み（グループワーク） 期末テスト 実技テスト			授業の取り組み（態度） 振り返り 発表 準備・片づけ	

※上記に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）にまとめます。また、学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）及び評定（1～5の5段階）にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

学期	単元名・学習内容	評価基準	評価方法		
			知 (a)	思 (b)	主 (c)
1 学 期 前 半	A 体づくり運動	<p>a:体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解している。</p> <p>b:自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 <p>c:体づくり運動の学習に自主的に取り組み、互いに助け合い教え合う。</p> <p>一人一人の違いに応じた動きなどを大切にすることなどに意欲をもつ。</p> <p>健康や安全を確保することができる。</p>	授業の取り組み	授業の取り組み	授業の取り組み 発表 振り返り
	選択1 E 球技	<p>a:勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解する。</p> <p>作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。</p> <p>b:攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫する。</p> <p>自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。</p> <p>c:球技の学習に自主的に取り組み、作戦などについての話し合いに貢献することや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にすることなどに意欲をもつ。</p> <p>健康や安全を確保することができる。</p>	授業の取り組み 実技テスト	授業の取り組み 実技テスト	授業の取り組み 発表 振り返り
	F 武道	<p>a: 技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方などを理解する。</p> <p>基本動作や基本となる技を用いて攻防を展開することができる。</p> <p>b:攻防などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫する。</p> <p>自己の考えたことを他者に伝えることができる。</p> <p>c:武道の学習に自主的に取り組み、相手を尊重し、</p>	授業の取り組み 実技テスト	授業の取り組み 実技テスト	授業の取り組み 発表 振り返り

	<p>H.体育理論</p> <p>1 スポーツの始まりと変遷</p> <p>2 文化としてのスポーツ</p>	<p>武道の伝統的な行動の仕方を大切にすることや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にすることなどに意欲をもつ。</p> <p>健康や安全を確保することができる。</p> <p>a:スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解しようとしている。</p> <p>b:スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断しようとしているとともに、他者に伝えようとしている。</p> <p>c:スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に自主的に取り組もうとしている。</p>	<p>期末テスト</p>	<p>期末テスト</p> <p>グループワーク</p>	<p>授業の取り組み</p> <p>振り返り</p> <p>発表</p>
2 学 期	<p>A 体づくり運動</p> <p>選択2</p> <p>B機械運動</p>	<p>a:体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解している。</p> <p>b: 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫する。</p> <p>自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。</p> <p>c:体づくり運動の学習に自主的に取り組み、互いに助け合い教え合う。</p> <p>一人一人の違いに応じた動きなどを大切にすることなどに意欲をもつ。</p> <p>健康や安全を確保することができる。</p> <p>a:技ができる楽しさや喜びを味わい、運動観察の方法や体力の高め方などを理解する。</p> <p>自己に適した技で演技することができる。</p> <p>b:技などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫する。</p> <p>自己の考えたことを他者に伝えることができる。</p>	<p>授業の取り組み</p> <p>授業の取り組み</p> <p>実技テスト</p>	<p>授業の取り組み</p> <p>授業の取り組み</p> <p>実技テスト</p>	<p>授業の取り組み</p> <p>発表</p> <p>振り返り</p> <p>発表</p> <p>振り返り</p>

	C陸上	<p>c:器械運動の学習に自主的に取り組み、よい演技を讃たたえることや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にすることなどに意欲をもつ。 健康や安全を確保することができる。</p> <p>a: ・記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解する。 各種目特有の技能を身に付けることができる。</p> <p>b:動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫する。 自己の考えたことを他者に伝えることができる。</p>	授業の取 り組み	授業の取 り組み	授業の取 り組み
	Gダンス	<p>c:陸上競技の学習に自主的に取り組み、ルールやマナーを大切にすることや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にすることなどに意欲をもつ。 健康や安全を確保することができる。</p> <p>a:感じを込めて踊ったり、みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、踊りの特徴と表現の仕方や運動観察の方法などを理解する。 イメージを深めた表現や踊りを通じた交流や発表をすることができる。</p> <p>b:表現などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫する。 自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。</p> <p>c:ダンスの学習に自主的に取り組み、互いに助け合い教え合うことや一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にすることなどに意欲をもつ。 健康・安全を確保することができる。</p>	授業の取 り組み	授業の取 り組み	授業の取 り組み
			実技テス ト	実技テス ト	発表 振り返り
			実技テス ト	実技テス ト	発表 振り返り

	<p>H体育理論 3 オリンピックとパラリンピックの意義</p> <p>4 スポーツが経済に及ぼす影響</p>	<p>a:現代のスポーツは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしており、その代表的なものにオリンピックやパラリンピック等の国際大会があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>現代のスポーツの経済的効果には、スポーツの実施による直接的な効果のみならず、例えば、スポーツ用品、スポーツに関する情報やサービス、スポーツ施設などの広範な業種から構成されるスポーツ産業による効果、スポーツイベント等による波及的な経済的効果があり、経済活動に大きな影響を及ぼしていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>b:スポーツの歴史的発展と多様な変化や現代のスポーツの意義や価値について、事実や理念を整理したり、自己のスポーツへの関わりを見いだしたりして、自己や社会にスポーツがもたらす影響について課題を発見している。</p> <p>スポーツの経済的効果と高潔さやスポーツが環境や社会へもたらす影響について、習得した知識を基に、持続可能なスポーツの発展のための課題の解決に向けて、自己の提案を言葉や文章などを通して他者に伝えている。</p> <p>c:スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展についての学習に、主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>期末テスト</p>	<p>期末テスト</p> <p>グループワーク</p>	<p>授業の取り組み</p> <p>振り返り</p> <p>発表</p>
<p>3 学 期</p>	<p>A 体づくり運動</p>	<p>a:体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解している。</p> <p>b:自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫する。</p> <p>自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。</p> <p>c:体づくり運動の学習に自主的に取り組み、互いに助け合い教え合う。</p> <p>一人一人の違いに応じた動きなどを大切にすることなどに意欲をもつ。</p> <p>健康や安全を確保することができる。</p>	<p>授業の取り組み</p>	<p>授業の取り組み</p>	<p>授業の取り組み</p> <p>発表</p> <p>振り返り</p>

	E球技	<p>a:勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解する。</p> <p>作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。</p> <p>b:攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫する。</p> <p>自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。</p> <p>c:球技の学習に自主的に取り組み、作戦などについての話し合いに貢献することや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にすることなどに意欲をもつ。</p> <p>健康や安全を確保することができる。</p>	授業の 組み 実技テ スト	授業の 組み 実技テ スト	授業の 組み 発表 振り返り
	H体育理論				
	5 スポーツの高潔さとドーピング	<p>a:競技会での勝利が個人や国家等に多大な利益をもたらすようになるとドーピング（禁止薬物使用等）が社会問題として取り上げられるようになったこと、ドーピングは不当に勝利を得ようとするフェアプレイの精神に反する不正な行為であり、能力の限界に挑戦するスポーツの文化的価値を失わせる行為であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p>	期末テ スト	期末テ スト グルー ワーク	授業の 組み 発表 振り返り
	6 スポーツと環境	<p>スポーツに関わる人々の増加は、例えば、地域の人々の生活や社会環境にも様々な影響をもたらすようになっていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>スポーツを行う際には、提供者、利用者の双方が持続可能な社会の実現や共生社会の実現を視野に入れた取組が求められることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>b:スポーツの歴史的発展と多様な変化や現代のスポーツの意義や価値について、事実や理念を整理したり、自己のスポーツへの関わりを見いだしたりし</p>			

	<p>て、自己や社会にスポーツがもたらす影響について課題を発見している。</p> <p>スポーツの経済的効果と高潔さやスポーツが環境や社会へもたらす影響について、習得した知識を基に、持続可能なスポーツの発展のための課題の解決に向けて、自己の提案を言葉や文章などを通して他者に伝えている。</p> <p>c:スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展についての学習に、主体的に取り組もうとしている。</p>			
--	---	--	--	--

令和4年度 富山県立福岡高等学校 シラバス

教科名	保健体育	科目名	保健	単位数	1	対象学年 コース・類型	1 学年
科目の 概要と 到達目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や態度を育てる。						
教科書	現代高等保健体育 (大修館書店)						
副教材	現代高等保健体育ノート (大修館書店)						
評 価 の 観 点 ・ 内 容	a : 知識・技能		b : 思考・判断・表現			c : 主体的に学習に取り組む態度	
	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。		健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。			生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。	
主 な 評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の取り組み ・ 提出物 (ノート・プリント) ・ 定期考査 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の取り組み ・ 提出物 (ノート・プリント) ・ レポート課題 ・ 定期考査 			<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の取り組み ・ 提出物 (ノート・プリント) ・ ワークシート ・ 定期考査 	

※上記に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価 (A、B、Cの3段階) にまとめます。また、学年末に観点別学習状況の評価 (A、B、Cの3段階) 及び評定 (1～5の5段階) にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

学期	単元名・学習内容	評価基準	評価方法		
			知 (a)	思 (b)	主 (c)
1 学期 前半	現代社会と健康 1 健康の考え方と成り立ち 2 私たちの健康のすがた	a:我が国の死亡率、受療率、平均寿命、健康寿命など各種の指標や疾病構造の変化を通して国民の健康課題について理解している。 b:健康の考え方について、自他や社会の課題の解決方法を話し合ったり、ノートなどに記述したりして、説明できる。 c:健康の考え方について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	提出物	提出物	提出物 ワークシート
1 学期 後半	3 生活習慣病の予防と回復 4 ガンの原因と予防 5 ガンの治療と回復 6 運動と健康 7 食事と健康 8 休養・睡眠と健康	a:生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることについて理解している。 b:生活習慣病などの予防と回復について、自他や社会の課題の解決方法を話し合ったり、ノートなどに記述したりして、説明できる。 c:生活習慣病とその予防について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	提出物	提出物 レポート	提出物 ワークシート
2 学期 前半	9 喫煙と健康 10 飲酒と健康 11 薬物乱用と健康	a:喫煙、飲酒、薬物が人体や周囲の人々に与える影響について理解している。 b:喫煙、飲酒、薬物乱用の防止について、自他や社会の課題の解決方法を話し合ったり、ノートなどに記述したりして、説明できる。 c:喫煙、飲酒、薬物乱用について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	提出物	提出物	提出物 ワークシート
2 学期 後半	12 精神疾患の特徴 13 精神疾患の予防 14 精神疾患からの回復 18 健康に関する意思決定・行動選択 19 健康に関する環境づくり	a:感染症は、時代や地域によって自然環境や社会環境の影響を受け、発生や流行に違いが見られること、その際、交通網の発達により短時間で広がりやすくなっていること、また新興感染症や再興感染症の発生や流行が見られることについて、理解している。 b:現代の感染症とその予防について、自他や社会の課題の解決方法を話し合ったり、ノートなどに記述したりして、説明できる。 c:現代の感染症とその予防について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	提出物	提出物	提出物 ワークシート

3 学 期	1 事故の現状と発生要因 2 安全な社会の形成 3 交通における安全	<p>a:事故の発生には、周りの状況の把握及び判断、行動や心理などの人的要因、気象条件、施設・設備、車両、法令、制度、情報体制などの環境要因などが関連していることについて理解している。</p> <p>b:安全な社会づくりについて、自他や社会の課題の解決方法を話し合ったり、ノートなどに記述したりして、説明できる。</p> <p>c:安全な社会づくりについて、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	提出物	提出物	提出物 ワークシート
	4 応急手当の意義とその基本 5 日常的な応急手当 6 心肺蘇生法	<p>a:適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を防いだり、傷病者の苦痛を緩和したりすることについて理解している。また、実習を通して基本的な応急手当やAEDを用いた心肺蘇生法を正しく行うことができる。</p> <p>b:応急手当について、自他や社会の課題の解決方法を話し合ったり、ノートなどに記述したりして、説明できる。</p> <p>c:応急手当について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	提出物	提出物	提出物 ワークシート

令和4年度 富山県立福岡高等学校 シラバス

教科名	芸術	科目名	音楽 I	単位数	2	対象学年 コース・類型	第1学年
科目の 概要と 到達目標	<p>科目の概要 音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>到達目標 (1) 曲想と音楽の構造や文化的・例指摘背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようとしているか。 (2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができているか。 (3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。</p>						
教科書	ON! 1 (音楽之友社)						
副教材	MUSIC NOTE～基礎から学ぶ高校音楽～(啓隆社)						
評価 の 観 点 ・ 内 容	a : 知識・技能		b : 思考・判断・表現		c : 主体的に学習に取り組む態度		
	<p>表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけ、歌唱、器楽、創作で表している。 <p>鑑賞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。 ・音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解している。 ・我が国や強度の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について理解している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。 ・曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴くことができる。 		<p>音や音楽、音楽文化と豊かに関わり、題材に関心を持ちながら、主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>		
主な 評価 方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の学習態度 ・ワークシート ・定期考査 		<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の学習態度 ・ワークシート ・レポート課題 ・実技テスト 		<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の学習態度 ・自己評価、振り返りシート ・実技テスト ・ワークシート ・ファイル、ノートの提出 		

※上記に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価 (A、B、Cの3段階) にまとめます。また、学年末に観点別学習状況の評価 (A、B、Cの3段階) 及び評定 (1～5の5段階) にまとめます。学習

内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

学期	単元名・学習内容	評価基準	評価方法		
			知 (a)	思 (b)	主 (c)
1 学期	みんなで歌おう 「校歌」 「翼をください」 「なぎさ道」 「ホールニューワールド」 楽譜の設計図 「五線譜を見てみよう」 「リズム」 「メロディー」	a: 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、楽曲にふさわしい発声、歌詞の発音などの技能を身につけている。 b: 旋律や声の音色を理解して、どのように歌唱表現するかについて表現意図を持っている。 c: 楽曲や作品に関心を持ち、主体的に歌唱や鑑賞の活動に取り組もうとしている。	観察	観察 ワークシート	観察 感想文
	ヨーロッパの歌 (イタリア) 「オーソーレミオ」	a: 音楽を形づくっている要素及び音楽に関する用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解している。 b: 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きについて感受することができる。 c: 主体的に学習に取り組むことができる。	ワークシート	ワークシート レポート課題	観察 レポート課題
2 学期	ヨーロッパの歌 (ドイツ) 「野バラ」	a: 言葉の特性と 曲種に応じた発声との関わりについて理解している。言葉の特徴をとらえた発声などの技能を身につけている。 b: 旋律や言葉と楽曲の美しさとの関わりについて考え、どのように歌唱表現するかについて表現を持っている。 c: 楽曲の雰囲気を持って、主体的に歌唱の活動に取り組もうとしている。	観察 実技テスト	観察 実技テスト	観察 実技テスト 感想文
	器楽 「リコーダー」	a: 曲想とリコーダーの基本的な奏法との関わりについて理解している。 b: 音色を知覚し、どのように演奏するかについて、表現意図を持っている。 c: 演奏に関心を持ち、主体的に器楽活動に取り組んでいる。	観察 実技テスト	観察 実技テスト	観察 実技テスト
	鑑賞 「郷土の伝統音楽」 「諸外国の音楽」	a: 様々な音楽の特徴と文化的・歴史的背景について理解している。 b: 音色やリズム、テクスチャを知覚し、それらの働きを感受しながら、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。 c: 様々な音楽に関心を持ち、主体的、協働的に鑑賞の活動に取り組もうとしている。	ワークシート	ワークシート	感想文
3 学期	合唱・創作 「ぜんぶ」 「ヴォイスリズムを作ろう」 楽典 「和音の種類とコードネーム」	a: 曲想と楽曲の構造との関わりについて理解し、音の重なりや和音の響き、特徴について、表したいイメージと関わらせて理解している。 b: 音色やリズム、旋律、和音の関係を知覚し、それらの働きを感受し、特徴をとらえて、どのように音楽を作り出し、自ら表現するかについて表現意図をもっている。	観察 発表 筆記テスト	観察 筆記テスト	観察 発表 ふり返しシート

		c : 題材に関心を持ち、主体的に創作活動や演奏、学習に取り組もうとしている。			
--	--	---	--	--	--

令和4年度 富山県立福岡高等学校 シラバス

教科名	芸術	科目名	美術 I	単位数	2	対象学年 コース・類型	第1学年
科目の 概要と 到達目標	<p>表現および鑑賞の領域で、絵画・彫刻とデザイン・映像メディア表現の分野における創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・造形的な視点について理解を深め、意図に応じて創意工夫し、創造的に表現できる。 ・造形的な視点から主題を生成し、創造的な発想・構想で、見方や感じ方を深めることができる。 ・主体的に創造活動に取り組み、感性を高めながら美術文化に親しむ態度を養う。 						
教科書	日本文教出版「高校生の美術1」						
副教材							
評価 の 観点 ・ 内容	a : 知識・技能		b : 思考・判断・表現		c : 主体的に学習に取り組む態度		
	<ul style="list-style-type: none"> ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めているか。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表しているか。 		<ul style="list-style-type: none"> ・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしているか。 		<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に表現および鑑賞の創造活動に取り組もうとしているか。 		
主な 評価 方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の活動の様子（発言・発表、態度、姿勢等） ・ワークシート ・スケッチブック（発想、構想等） ・下絵 ・作品 		<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の活動の様子（発言・発表、態度、姿勢等） ・ワークシート ・スケッチブック（発想、構想等） ・下絵 ・作品 		<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の活動の様子（発言・発表、態度、姿勢等） ・ワークシート（振り返り） ・スケッチブック（発想、構想等） ・下絵 ・作品 		

※上記に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）にまとめます。また、学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）及び評定（1～5の5段階）にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

学期	題材・学習内容	評価基準	評価方法		
			知 (a)	思 (b)	主 (c)
1 学期	[刈エンテーション・鑑賞] 「美術とは何か」 ・美術の学びの意味や広がりについて、作品鑑賞を通して考える。	(a)表現するための造形的な視点について理解を深めている。 (b) 表現・鑑賞の活動経験を振り返り、美術を学ぶ意味、美術の働きについて考えている。	活動様子 ワークシート	活動様子 ワークシート	
	[表現] 「身近なものを見つめて」 (鉛筆による描画表現) ・身近なものを見つめ直し、そのよさや美しさに気づき、感じ取ったことや考えたことをもとに、鉛筆の特性を生かしながら描く。	(a)形体と色彩、材質や光による変化などの造形的な視点について理解を深め、その造形的な特徴を基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 (a)画材用具の特性を生かし、対象の特徴や表情に応じて表現方法を創意工夫している。 (b)対象を見つめ感じ取ったことや考えたことなどから主題を生成している。 (b)画材用具の特性を生かし表現の幅を広げ、形体や構図などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。 (c)主体的に身近なものを見つめ感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現の創造活動に取り組もうとしている。	活動様子 ワークシート スケッチブック 下絵 作品	活動様子 ワークシート スケッチブック 下絵 作品	活動様子 ワークシート (振り返り) スケッチブック 下絵 作品
	[鑑賞・表現] 「花を描こう」 (油彩による描画表現) ・好きな花を見つめ感じ取ったことや考えたことなどから主題を生成し、油彩用具の特性を生かして表現方法を創意工夫し、創造的な表現を追求する。	(a)形体と色彩、光による変化などの造形的な視点について理解を深め、その造形的な特徴を基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 (a)油彩用具の特性を生かして表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表している。 (b)好きな花を見つめ感じ取ったことや考えたことなどから主題を生成している。 (b)油彩用具の特性を生かし表現の幅を広げ、形体や色彩、構図などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。 (b)造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。 (c)主体的に好きな花を見つめ感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現の創造活動に取り組もうとしている。 (c)主体的に作品の造形的なよさを感じ取り、作者の心情や油彩用具の特性を生かした創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。	活動様子 ワークシート スケッチブック 下絵 作品	活動様子 ワークシート スケッチブック 下絵 作品	活動様子 ワークシート (振り返り) スケッチブック 下絵 作品
2 学期	[鑑賞] 「鑑賞T I M E」 ・〈見る→考える→話す→聞く〉の流れで、作品に込められた思いを探るとともに、他者の解釈に触れることで見方や考え方を広げる。	(a)形体、色彩、素材等の造形要素の働きを理解するとともに、造形的な特徴などを基に全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。 (b)造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や考え方を深め広げている。 (b)生活や社会の中の美術・アートの働きについて考え、見方や考え方を深め広げている。 (c)主体的に造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や考え方を深め広げる鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。	活動様子 ワークシート スケッチブック	活動様子 ワークシート スケッチブック	活動様子 ワークシート (振り返り) スケッチブック

	<p>【鑑賞・表現】 「自己との対話（自画像）」 （油彩による描画表現） ・過去の自分を振り返り、未来の自分を想像しながら、現在の自分と対話して思い巡らせたことを基に主題を生成し、自身を表現するための構想を練り、油彩の特性を生かした創造的な表現を追求する。</p>	<p>(a)形体、色彩、構図など造形の要素の働きについて理解を深め、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 (a)油彩用具の特性を生かして表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表している。 (b)過去の自分を振り返り、未来の自分を想像しながら、現在の自分と対話して主題を生成している。 (b)油彩用具の特性を生かし表現の幅を広げ、形体や色彩、構図などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。 (b)造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。 (c)主体的に自己との対話を通して思いを巡らせたことを基に創造的な表現活動に取り組もうとしている。 (c)主体的に作品の造形的なよさを感じ取り、作者の心情や油彩用具の特性を生かした創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深める創造的な鑑賞活動に取り組もうとしている。</p>	活動様子 ワークシート スケッチブック 下絵 作品	活動様子 ワークシート スケッチブック 下絵 作品	活動様子 ワークシート (振り返り) スケッチブック 下絵 作品
3 学 期	<p>【鑑賞・表現】 「本の表紙デザイン」 （水彩、色鉛筆等による描画表現） ・社会におけるデザインの役割について理解し、効果的なデザインレイアウトやフォントを駆使して、書店を訪れる人に思わず手に取って見てもらえる表紙デザインを目指す。</p>	<p>(a)レイアウト、フォントなどデザイン要素の働きについて理解を深め、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。 (a)意図に応じて材料や用具の特性を生かし、表現方法を創意工夫し、本の表紙として創造的に表している。 (b)本の内容を基に目的や条件、美しさなどを考え、主題（デザインコンセプト）を生成している。 (b)デザインコンセプトを基に、レイアウトやフォントの表現形式や画材の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。 (c)主体的にデザイン表現の創造活動に取り組もうとしている。 (c)主体的にデザイン的なよさや効果を感じ取り、本の内容と結びついた創造的な表現の工夫などについて考え、効果的なデザイン表現を深める鑑賞活動に取り組もうとしている。</p>	活動様子 ワークシート スケッチブック 下絵 作品	活動様子 ワークシート スケッチブック 下絵 作品	活動様子 ワークシート (振り返り) スケッチブック 下絵 作品

令和4年度 富山県立福岡高等学校 シラバス

教科名	芸術	科目名	書道 I	単位数	2	対象学年 コース・類型	第1学年
科目の 概要と 到達目標	書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書の伝統に基づき効果的に表現するための基礎的な技能を身につけるようにし、生涯にわたり書を愛好する心情を育み、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。						
教科書	光村書店「書 I」						
副教材							
評 価 の 観 点 ・ 内 容	a : 知識・技能		b : 思考・判断・表現		c : 主体的に学習に取り組む態度		
	書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解しているか。また、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけているか。		書のよさや美しさを感じ、ねらいに基づいて構想し表現を工夫しているか。また、書の伝統と文化の意味や価値を考え書の美を味わい捉えたりすることができているか。		主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしているか。		
主 な 評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の学習態度 提出物 		<ul style="list-style-type: none"> 授業中の学習態度 提出物 		<ul style="list-style-type: none"> 授業中の学習態度 提出物 ワークシート 		

※上記に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）にまとめます。また、学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）及び評定（1～5の5段階）にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

学期	単元名・学習内容	評価基準	評価方法		
			知 (a)	思 (b)	主 (c)
1 学期 前半	書道入門 楷書の学習 ・楷書の基本点画 ・孔子廟堂碑 ・九成宮禮泉銘	a: 書写と書道の違いについて理解し、用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解している。また、楷書の書風と用筆・運筆との関わりについて理解し、楷書の古典の書風を表現出来るとともに、書風を再現する倣書ができる。 b: 楷書の古典の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。また、書風を再現する倣書をするために、書風の理解に基づき思考している。 c: 主体的に楷書の幅広い書風の表現に取り組もうとしている。	提出物	提出物	提出物 ワークシート
1 学期 後半	・雁塔聖教序 ・建中告身帖 ・鄭義下碑 ・書風による倣書 夏期課題 細字氏名練習 楷書・行書				
2 学期 前半	行書の学習 ・行書の基本点画 ・蘭亭序 ・枯樹賦 ・風信帖	a: 行書及び隸書の書風と用筆・運筆との関わりについて理解し、行書・隸書の古典の書風を表現できる。また、印を刻する刀法を理解し、各自の氏名または名のみにより印を制作することができる。 b: 行書及び隸書の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。また、印面への各自の文字の印稿が安定感のあるものになるように思考している。	提出物	提出物	提出物 ワークシート
2 学期 後半	篆刻の学習 ・氏名による印制作 隸書の学習 ・曹全碑 ・礼器碑	c: 主体的に行書・隸書の幅広い書風の表現に取り組もうとし、また主体的に印を制作しようとしている。			
3 学期	仮名の書の学習 ・仮名の筆使い ・平仮名 ・変体仮名 ・連綿 ・散らし書き 漢字仮名交じりの書 ・手紙文 ・賞状	a: 仮名の書の用筆・運筆を理解し表現できる。また、連綿、散らし書きの方法を理解し表現できる。また、漢字と仮名の調和について理解し表現できる。 b: 仮名の書の用筆・運筆・字形、連綿を用いた散らし書きの全体構成について構想し工夫している。また、漢字と仮名が調和するよう工夫している。 c: 主体的に仮名の書の創造的な表現の学習活動に取り組もうとしている。また、漢字と仮名が調和するように主体的に取り組もうとしている。	提出物	提出物	提出物 ワークシート

令和4年度 富山県立福岡高等学校 シラバス

教科名	外国語	科目名	英語コミュニケーションⅠ	単位数	3	対象学年 コース・類型	第1学年
科目の 概要と 到達目標	<p>【科目の概要】 5領域の指導を通して、英語でコミュニケーションを図る資質・能力を総合的に育成する。</p> <p>【到達目標】 聞くこと...日常的な話題についての英文を聞き、必要な情報を聞き取ることができる。英語コミュニケーションⅠの教科書の英文を聞き、ディクテーションができる。 読むこと...日常的な話題について、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握することができる。英語コミュニケーションⅠの教科書を読み、本文の内容を理解できる。 話すこと [やり取り] ...英語コミュニケーションⅠの教科書に関連する日常的な話題について、基本的な表現を用いて質疑応答ができる。相手の発言に対してリアクションや応答ができる。 話すこと [発表] ...英語コミュニケーションⅠの教科書の内容を、メモを参考にしながら、英語で伝えることができる。また、教科書の内容に関連するテーマについて、スクリプトを参考にしながら、1分程度で相手に伝えることができる。 書くこと...英語コミュニケーションⅠの内容を、簡単な英語で要約できる。また、教科書の内容に関連するテーマについて、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。</p>						
教科書	桐原書店「Heartening English Communication Ⅰ」						
副教材	教科書傍用問題集 「Heartening English Communication Ⅰ学習ノート」(桐原書店) 「Heartening English Communication ⅠWorkbook」(桐原書店) 「Heartening English Communication Ⅰ4技能学習 Naviブック」(桐原書店)						
評価 の 観 点 ・ 内 容	a: 知識・技能		b: 思考・判断・表現		c: 主体的に学習に取り組む態度		
	教科書本文を聞き、簡単な質問に英語で答えたり、概要を捉えたりすることができる。教科書を読み、内容を理解したり、必要な情報を読みとったりすることができる。教科書本文に関する話題について、自分の意見を言ったり、まとめたりすることができる。		教科書本文を読み、必要な情報を読みとることができる。教科書本文の内容に関して、要点をまとめたメモをもとに、本文の要約を英語で伝えることができる。教科書本文に関するテーマについて、英語でディベートをしたり、論理性に留意して、自分の意見を英語で書いたりすることができる。		積極的に英語でコミュニケーションをとろうとしている。ペアやグループでの活動の際に、英語で自分の意見を言ったり、他の人の意見を聞いたりする姿勢ができていく。ロールプレイングなどの活動に意欲的に取り組んでいる。単元ごとに学習した内容を振り返り、自己評価をすることができる。		
主な 評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の学習態度 確認テスト、小テスト 課題への取組み状況 定期考査 		<ul style="list-style-type: none"> 授業中の学習態度 確認テスト、小テスト レポート課題 定期考査 		<ul style="list-style-type: none"> 授業中の学習態度 自己評価、振り返りシート グループ活動や発表の状況 パフォーマンス課題 		

※上記に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）にまとめます。また、学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）及び評定（1～5の5段階）にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

学期	単元名・学習内容	評価基準	L	Lis	R	Si	Sp	W	
1 学期 前半	<Lesson 1> Bringing Out the Best in Himself ・現在形／過去形 ／進行形 ・未来表現 <Lesson 2> Hold On, Anzu! ・現在完了形／ 現在完了進行形 ・過去完了形／ 過去完了進行形	a: 現在形, 過去形, 進行形, および未来表現の文 の特徴やきまりを理解している. 内容を整理し, 学 習した新語などを用いて話す技能を身に付けてい る. 八村選手や, Anzu に関するストーリーを聞い て要点を捉えることができる. b:教科書の内容をわかりやすく整理して話してい る. メモをもとに, 教科書の内容を英語で表現しま とめることができる. c: 意欲的に活動に取り組んでいる.	L1	○	○	○		○	
			L2		○		○		
1 学期 後半	<Lesson3> We can make a Difference SDGs ・助動詞 <Lesson 4> Creative problem Solving ・様々な受動態 ・前置詞 <RL English 1> How to Deal with Dorm Room Issues <Reading 1> The ABC' s of courage	a:助動詞を用いた文の特徴やきまりを理解してい る. 気候変動や, ごみのポイ捨ての心理に関する英 文を読み, 要点を捉えることができる. 寮生活を 送る主人公に関する文章を読み, ロールプレイング ができる. b:教科書の内容の要点をとらえ, 自分の意見を英語 で話したり書いたりすることができる. c:積極的に英語で表現しようとしている. 意欲的に 発表している. 役になりきってロールプレイングす ることができる.	L3	○	○	○		○	
			L4		○		○	○	
			RL1				○	○	
			R 1	○	○				
2 学期 前半	<Lesson 5> Canned bread to Feed the world SDGs ・不定詞 ・知覚/使役動詞 <Lesson 6> Could We Have a Real Jurassic Park? ・動名詞 ・SVC(分詞)	a: パン・アキモトの取組を述べた物語文を聞き, 要点を聞き取ることができる. 恐竜再生に関する説 明文を読み, 内容を理解できる. b:物語に出てくる人物や事柄を整理し, メモをもと に, 教科書の内容を英語で表現することができる. 恐竜再生について自分の意見を述べるパラグラフを 書くことができる. c: ペアで意欲的に会話をすることができる. さまざ まな語句を用いて英文を書こうとしている.	L5	○	○	○		○	
			L6		○		○	○	
2 学期 後半	<Lesson 7> Behind the price tag SDGs ・分詞構文 <Lesson 8> The world' s Winter festivals ・比較 ・従属接続詞 <RL English 2> How to Enjoy a	a:分詞や比較の表現を用いた文の特徴やきまりを 理解している. 衣類製造のプロセスにおける労働者 や, 世界の祭りに関する説明文を読み, 内容を理解 できる. 留学先でのパーティーを題材に, ロールプ レイングができる. b:相手の意見に賛成, 反対を表明し, 理由を説明す る. 自分の主張をパラグラフで書くことができる.	L7	○	○	○		○	
			L8	○			○		
			RL2				○	○	

	Potluck Party on Christmas 〈Reading 2〉 The Boy with the Box	c: 自分の意見を英語で意欲的に発表している。役になりきってロールプレイングすることができる。	R2	○					
3 学 期 前 半	〈Lesson9〉 Talking Trees ・関係代名詞 ・関係副詞 〈Lesson10〉 Capturing the Reality of the World ・仮定法 〈RL English 3〉 How to Show Appreciation to Your Teachers	a: 木のコミュニケーション説明文を聞き、概要を捉えることができる。フォトジャーナリストに関する物語文を読み、内容を理解する。 b: フォトジャーナリストの仕事を友人に伝えたり、紹介記事を書いたりできる。Teacher Appreciation Week を題材に、ロールプレイングができる。 c: 自分の意見を英語で意欲的に発表している。役になりきってロールプレイングすることができる。	L9	○	○		○		
			L10			○		○	○
			RL3				○	○	

令和4年度 富山県立福岡高等学校 シラバス

教科名	情報	科目名	情報 I	単位数	2	対象学年 コース・類型	第1学年
科目の 概要と 到達目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を身につける。						
教科書	「情報 I Step Forward!」 (東京書籍)						
副教材	教科書傍用問題集「ニュースステップアップ情報 I」 (東京書籍) 「Python 入門 プログラミングの基礎から応用まで」 (東京書籍) 「2022 事例でわかる情報モラル&セキュリティ」 (実教出版)						
評価 の 観点 ・ 内 容	a : 知識・技能		b : 思考・判断・表現			c : 主体的に学習に取り組む態度	
	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身につけているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。		事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。			情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。	
主な 評価 方法	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート 制作物 定期考査 		<ul style="list-style-type: none"> ワークシート 制作物 定期考査 			<ul style="list-style-type: none"> 授業中の学習態度 振り返り (生徒自己評価) グループ活動や発表の状況 	

※ 上記に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価 (A・B・Cの3段階) にまとめます。また、学年末に観点別学習状況の評価 (A・B・Cの3段階) 及び評定 (1～5の5段階) にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

学期	単元名・学習内容	評価基準	評価方法		
			知 (a)	思 (b)	主 (c)
1 学期 前半	第1章 情報社会 Theory 01～08 ① 問題を発見・解決する方法 ② 情報社会における個人の果たす役割と責任	a: 情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法を身に付けている。情報に関する法規や制度、情報セキュリティの重要性について理解している。 b: 情報に関する法規や制度及びマナーの意義について、それらの背景を科学的に捉え、考察することができる。情報と情報技術の適切かつ効果的な活用と望ましい情報社会の構築について考察することができる。 c: 情報社会における問題の発見・解決に、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用しようとする。	ワークシート 制作物 中間考査	ワークシート 制作物 中間考査	学習態度 振り返り グループ活動 発表
1 学期 後半	Theory 09～11 ③ 情報技術が果たす役割と望ましい情報社会の構築 第2章 情報デザイン Theory 12～20 ① メディアの特性とコミュニケーション手段	a: 情報モラル及び情報技術が人や社会に果たす役割と及ぼす影響について理解している。メディアの特性やコミュニケーション手段の特徴、情報デザインが人や社会に果たしている役割を理解している。 b: メディアとコミュニケーション手段の関係を科学的に捉え、それらを目的や状況に応じて適切に選択することができる。 c: 情報モラルなどに配慮して情報社会に主体的に参画しようとする。	ワークシート 制作物 期末考査	ワークシート 制作物 期末考査	学習態度 振り返り グループ活動 発表
2 学期 前半	Theory 21～26 ② 情報デザイン ③ 効果的なコミュニケーション 第3章 プログラミング Theory 27～30 ① コンピュータの仕組み	a: 効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方を理解している。コンピュータや外部装置の仕組みや特徴、コンピュータでの情報の内部表現と計算について理解している。 b: コミュニケーションの目的を明確にして、適切かつ効果的な情報デザインを表現することができる。 c: 情報技術を活用して効果的なコミュニケーションを行おうとし、情報社会に主体的に参画しようとする。	ワークシート 制作物 中間考査	ワークシート 制作物 中間考査	学習態度 振り返り グループ活動 発表
2 学期 後半	Theory 31～39 ② アルゴリズムとプログラミング ③ モデル化とシミュレーション	a: アルゴリズムを表現する手段、プログラミングによってコンピュータや情報通信ネットワークを活用する方法について理解し技能を身に付けている。 b: 目的に応じたアルゴリズムを考え適切な方法で表現し、プログラミングによりコンピュータや情報通信ネットワークを活用することができる。 c: 問題解決にコンピュータを積極的に活用し、結果を振り返って改善しようとすることを通じて情報社会に主体的に参画しようとする。	ワークシート 制作物 期末考査	ワークシート 制作物 期末考査	学習態度 振り返り グループ活動 発表
3 学期	第4章 ネットワークの活用 Theory 40～52 ① 情報通信ネットワークの仕組みと役割 ② 情報システムとデータの管理 ③ データの収集・整理・分析	a: 情報通信ネットワークや情報システムの仕組みを理解している。データを収集・整理・分析する方法、情報セキュリティを確保する方法を身に付けている。 b: 情報通信ネットワークや情報システムにより提供されるサービスを安全かつ効率的に活用したり、データを問題の発見・解決に活用したりすることができる。 c: 情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報セキュリティなどに配慮して情報社会に主体的に参画しようとする。	ワークシート 制作物 学年末考査	ワークシート 制作物 学年末考査	学習態度 振り返り グループ活動 発表